

第 9 回日野市ごみ減量・リサイクル等推進協議会 要点録

■会議の日時等

日時 令和5年(2023年)9月28日(木) 午後2時30分～

会場 日野市クリーンセンター プラスチック類資源化施設 2階多目的室

出席者 **協議会委員**

【廃棄物に関し学識経験のある者】

宮脇委員、小野寺委員

【市民委員】

比留間委員、加納委員、畑中委員、木村委員、川面委員

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

多治見委員、津嶋委員、内田委員

【環境保全課長】

中平委員

【施設課長】

細谷委員

事務局

【環境共生部】

小平環境共生部長兼クリーンセンター長

【ごみゼロ推進課】

小澤課長、高橋課長補佐、川崎主事

欠席者 **協議会委員**

【市民委員】

新井委員、高橋委員、佐藤委員、影山委員、小野委員

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

高松委員、新野委員、後藤委員、星野委員

傍聴者 1名

次第

1. 会長挨拶

2. エコーVol.53

3. 令和4年度清掃概要

4. ワールドカフェ方式による対話

テーマ「ごみ減量・循環経済に向けた今後の協議会のあり方」

5. 一人一言

配布資料

資料 1 第 9 回ごみ減量・リサイクル等協議会資料

資料 2 エコーVol.53

資料 3 令和 4 年度清掃概要

■主な内容

1. 会長挨拶

会長より挨拶。

2. エコーVol.53

事務局より水銀回収キャンペーンや資源物のリサイクルについてなどを資料2に沿って説明。

3. 令和 4 年度清掃概要

事務局よりごみ量の推移や資源物の回収状況などを資料3に沿って説明。

4. ワールドカフェ方式による対話

テーマ「ごみ減量・循環経済に向けた今後の協議会のあり方」

事務局より、ワールドカフェ方式のやり方を資料 1 に沿って説明。

3 つのグループ(A,B,C)に分かれ、テーマについて話し合い、メンバーを入れ替えながら意見交換を行い、下記のとおり各グループの発表を行った。

【A グループ】

メンバー：比留間委員、畑中委員、内田委員、中平委員

発表者：中平委員

発表内容：

- ・立場の違う方々が参加し、その方々から様々な意見や情報を知ることができてよかった。
- ・対話形式で進められ、対話の中から得られる気づきがありよかった。
- ・専門分野の方のお話が聞きたい。
- ・PDCA をしっかり回していくために、資料のデジタル化も改善案としてある。
- ・次回以降は、より多くの方が参加できるよう場所を変えて行うなど、このような会議が行われていることを広く周知・広報してはどうか。
- ・情報発信については、より多くの方に知っていただくために、ごみ減量を考える方に向けて PR を行う必要があるのではないか。
- ・メディアにこのような活動を知っていただくことが必要ではないか。

- ・地域や他の自治体の好事例を紹介してはどうか。
- ・プロジェクトチームを作ることや、目標設定するなどできることから始めると、よりモチベーションも上がるのではないかな。

【B グループ】

メンバー：小野寺委員、木村委員、津嶋委員、小澤委員

発表者：小野寺委員

発表内容：

- ・中間検証ができたことや色々な立場の方が意見交換できたことが良かった。
- ・中間検証で挙げられた問題点の掘り下げが足りなかったのではないかな。
- ・次期協議会の課題として、より具体的に設定をすることが必要。
- ・テーマを掘り下げていくために共通のテーマについて関心を持っている人が集まり、小グループのプロジェクトチームを作り行うことも必要ではないかな。
- ・オンライン会議の活用。
- ・ごみ問題に興味をもっていない人に向けて、自分事として考えていただくためにどのように情報発信していくかが課題。
- ・日野市は、ごみに関する情報発信が足りないのではないかな。

【C グループ】

メンバー：加納委員、川面委員、多治見委員、細谷委員

発表者：川面委員

発表内容：

- ・グループワークにて色々な意見を聞くことができたことが良かった。
- ・様々な立場の方々が参加されていたことで情報収集ができたことが良かった。
- ・自分の生活から、ごみをリサイクルすることについて考えるようになった。
- ・紙減量のため、データでのやり取りを行った方が良いのではないかな。
- ・次回以降もグループワークは続けたほうが良い。
- ・広報については、さらなる改善方法を検討。
- ・ごみの分別から楽しく行動に移せるようなアイデアの掘り下げ。
- ・食品や日用品など物の種類によってリサイクルの考え方について掘り下げ。
- ・3市（日野市・国分寺市・小金井市）協働でごみを削減するための掘り下げ。
- ・市民の目線に立って考えていくにはということを中心に、今後話し合いが進められるといいのではないかな。

講評(宮脇協議会会長)

どのグループも比較的に共通したことが挙げられおり、一体感があった。協議会の当初は若干の距離感があったが、前半と比べてより一体感を感じられた。グループワークの中で継続した方が良いことについてのご意見や情報発信が重要という意見があったが、その通りであると思った。

情報発信については色々な手法があり、この協議会にて行っていることがなかなか外部に向けて伝わってないのではないかという皆さんの思いも気になり、私もそう思った次第。広報には協議会のご案内等が書いてあるが、例えばグループワークにて市民と事業者と市が三者一体となって活動しているという写真が広報などで発信されるほうが、興味がない方に向けても参加いただけるような取り組みができるといいのではないかということを使った。そのため、情報発信については何かいい方法があるのではないかと思える。色々なアイデアが出たものをまとめて多くの市民の方に伝えていくことが必要であるのかなと感じた。

グループワークでの話し合いの中で『地域の協働』というキーワードなどが挙げられており、ごみ問題についてだけではなく、幅広く広がっていくと良いと思った。『自分事でない』というキーワードも出ていた通り、自分事になるというのはなかなか簡単ではないため、そのあたりが上手くいくと良いなと思った。

また、紙資料をデジタルにするなど、行政も DX 化を進めていくと良いのかなというふうに思った。すぐには難しいかもしれないですが、情報発信にも繋がるし、会議資料がグループワークのチーム間で共有できるようになると後程読み返すこともできるので、市の方に検討していただきたいなと思った。

5. 一人一言

(各委員より感想や意見)

- ◆私は協議会の委員として会に参加するのは本日で最後だが、ごみ問題に興味のない方々にどう興味を持っていただくかということへのヒントになるかと思い、お話をさせていただく。ある企業から私の専門分野である大気物理学(気象学)について講演依頼があった。その企業は気象学の分野ではなかったが、講演の依頼を受けた。講演内容は、大気の面白さについて話をしたが、話だけでは分かりにくいと思い、ある科学実験を行ったところ、200人ほどの社員の方の反応が非常に良かった。このように何か面白そうなものを交えて人を集めるような仕組みを考えていくのが良いのではないかなというのが、私が最後に申しあげる一言。
- ◆次期協議会についても参加。今後も私は日野市に段ボールコンポストというものを広めていきたいと思っている。
- ◆昨年度から気候変動の問題に取り組んでいる。ごみの問題と気候の問題には共通することがあり、いかに無関心な方にも参加・関心を持っていただくということが共通し

ている。気候市民会議に参加しているが、無作為抽出によって関心の薄い方も含めて 40 名の市民が政策課題を考えている。

ごみ問題も同じようにできるのではないかと考えている。特にごみ問題は個人でできる気候変動への大きな取り組みなので、両方の取り組みをどこかで融合させていけたらと思っている。

- ◆ 商業者代表として生ごみ問題など、身近にある話を色々と聞けて勉強になった。次期も委員として参加。商業者に伝えるようにしていく。
- ◆ 人間は太古から、ごみ問題と切っては切れない生活をしてきた。現代においては猛スピードでごみへの意識や環境が変わっている。その中でこのような協議会で色々な方との意見交換で、ごみへの新しい処理の光が見いだせると思った。
- ◆ 私も今日限りで協議会への参加は終わり。焼却ごみをゼロに近づけていくことが重要。人口 10 万人以上 50 万人未満の市町村で日野市は一人一日あたりのごみ排出量の少なさが全国で 2 位だが、日野市は約 30 年後、焼却施設をどうするのかということについて道筋を考える必要があるのではないかなと思う。
- ◆ 自分の知識も広がり、意見交換もできたのでこのような会議に参加できてすごく良かった。今後も自分で知識を増やしていき、SNS で広げたりして、ごみ問題に関してあまり知らない方々にも知っていただけたらと思っている。
- ◆ 行政にとっては耳の痛いご意見も多く頂戴した。一歩進めるためにはそういったご意見が大変重要だと考えている。今回で任期を終えられる方も今後にご意見をいただけたらと思う。
- ◆ 色々な方のご意見を聞くことができた。また、自分が活動する回轉市場の存在も皆さんに知っていただけて良かった。
- ◆ 当協議会にて行ったグループワークでは様々な意見が出て、私も意見をしたということとで楽しく過ごさせていただいた。リサイクルやごみ減量に意識のない方々にどうやって意識を持っていただくかということが重要なポイントだが、結果的に楽しいことがあって自然にリサイクルやごみ減量に繋がる施策を考えられたらより進められるのかなと思う。
- ◆ 様々な方から多くの話を伺うことができてとても勉強になった。自分は、現在まちづくりやまちおこしについて積極的に学んでいるので、そのような分野も生かしながら地域のつながりを生かしたごみのリサイクルの仕組みに携われたらと思っている。
- ◆ ごみ行政は市が行っているものではあるが、実際に分別や減量を実行しているのは市民の皆様。委員の皆様から、市民が動きやすい・行動しやすいようなご意見やアイデアをいただき大変勉強になった。

次回日程：令和 5 年 12 月 11 日(月)実施予定